

組織目標評価報告書（平成22年度）

部局名： 環境管理センター

| | 組織目標 | 達成状況(成果) |
|---|---|---|
| 教育 | 1 環境、安全に関する教育資料の発行及び見直しを行う。 2 実験、実習等を始める学生に対して学部、学科に外向き環境安全教育を実施する。 3 新入学生に「安全・環境ガイドブック」を配布し、安全と環境に関するマインドを持つ学生を育てる。 4 学内構成員及び一般市民に対して公開講演会、種々の講習会を実施し、環境問題とその解決策について考える機会を提供する。 | 1. 「環境安全の手引き(英語版)」を新規に発行し、配布すると共に環境管理センターHPに公開した。また、同手引きの日本語版を見直し、改訂版を発行した。 2. 実験、実習を始める学生に対して出前講義を行った(計13回、延べ537名)。 3. 平成22年度新入生には「安全・環境ガイドブック」を配布した。平成23年度新入生に配布する資料として、内容を大幅に見直し、「環境安全ガイド」と名称を改めた新たな装丁の冊子を作成した。 4. 環境月間の6月に環境管理センター主催による公開シンポジウム「地域の自然エネルギー活用と地方の活性化」を開催し、その折に出された参加者からの質問並びに講演者による回答をセンターHPにて公開した(参加者: 一般市民を含め約150名)。また、学内構成員を中心とした勉強会「サステイナブル・セミナー」を定期的に開催することを企画し、12月にキックオフセミナーを開催した(参加者: 教職員や学生 約50名)。 |
| | | 達成度: 4 3 2 1 |
| 研究 | 1 環境関連の各自の専門分野において、基盤的及び実用的な研究を推進する。また研究成果を関連学会での発表及び論文等で公表する。 2 センター教員の個別研究を進展するため、外部資金の獲得と研究基盤の充実に努める。 3 「大学等環境安全協議会」等への参加、学外施設の見学等を行い、環境・安全に関する情報を調査・研究するとともに、本学における環境・安全対策を充実させる。 4 前年度の研究活動実績を「環境制御」に掲載し公表する。 | 1. 各教員が、環境関連の専門分野にて、基盤的あるいは実用的な研究を進めており、関連学会で発表または論文にて公表した。 2. 科学研究費や外部資金の獲得を積極的に行い、平成22年度も新規に外部資金を獲得した。さらに、学長裁量経費、施設整備要求、並びに分析機器等の設備要求も積極的に行った。特に、平成22年度学長裁量経費において、岡大キャンパスのスマートグリッドに向けた座主川の水力エネルギー活用への試行が採択され、研究基盤の充実に努めた。 3. 「大学等環境安全協議会」にはセンター長を始め関係者が参加し、他大学と環境・安全に関する情報交換を行うと共に、学外見学会に参加することにより、本学における環境・安全対策の充実に反映させた。なお、平成23年12月に同協議会総会を岡山大学で開催する。 4. 「環境制御」を発刊し、前年度の研究活動実績を掲載し公表した。 |
| | | 4 3 2 1 |
| センター業務 | 1 環境マネジメント委員会の方針に基づき、学内の環境マネジメントの充実・進展を図る。 2 実験系有害廃棄物の適正管理及び処分、廃棄物の発生抑制、再資源化及び減量化の推進、有害物質の汚染防止に関する業務を推進する。 3 化学物質管理状況に関する監査を行い、化学物質の適正管理の強化を図る。また、化学物質管理システムの見直し及び普及に努める。 4 各部署と協力して、省資源、省エネルギー、温暖化対策を引き続き実施する。 5 大学広報誌である「環境報告書」を企画し、関連部署と共同で作成する。 | 1. 環境マネジメント委員会にて環境目標・目的の点検評価、本学の環境報告書の作成、岡山県条例に基づく「温室効果ガス削減計画」、リユース情報提供システム再構築に関する計画等を協議することにより環境マネジメントの充実と進展を図った。 2. 実験系廃棄物管理に関し、技術指導員講習会を2回開催した。また、水質管理講習会を開催し、排水管理に関するコンプライアンス啓発を行った。 3. 適正な化学物質管理を推進するため、化学物質管理講習会を2回開催した。化学物質管理に関する監査として、書面審査(全部局)、現地調査(6部局)を実施し、化学物質の適正管理の強化を図った。さらに、「化学物質管理の手引き」を作成し、発行した。 4. 各部署の廃棄物・資源化物の管理状況、地球温暖化対策に基づくエネルギー管理状況、計画等を把握した。 5. 「環境報告書2010」を企画・作成し、9月に公表した。また同報告書のダイジェスト版を及びアンケートを作成し、全教職員及び学生に配布し、環境報告書並びにセンター業務に関する意見を収集し分析した(回収率 約20%)。 |
| | | 達成度: 4 3 2 1 |
| 社会貢献 | 環境に関する市民参加の講演会を開催する。 | 1. 環境月間の6月に環境管理センター公開シンポジウム「地域の自然エネルギー活用と地方の活性化」を開催し、学外から多くの市民参加を得た。 |
| | | 達成度: 4 3 2 1 |
| 【自己評価総括記述欄】 ※目標及び指標の達成状況について総括し、次年度に向けた改善点等を記載してください。 教育、研究、センター業務に関しては、目標及び指標の達成度は良好であったと評価する。特に、教育に関しては、目標に掲げた項目以上の成果がなされたと思われる。成果には記載していないが、平成23年度に向けて、全学用の教養教育科目「サステイナブル・キャンパスを目指して」を開講するための準備も完了している。平成23年度以降は、引き続き各部署の協力を得ながら、当センターが実施する教育・研究を通して、地球温暖化防止対策、エネルギー管理、化学物質管理等、本学環境マネジメントの目標値達成推進に貢献する。社会貢献に対しては、平成22年度は約150名を得た公開シンポジウムを開催することが出来たが、改善の余地があると思われ、来年度からは学内外に対する環境コミュニケーションについて検討が必要であるとする。 | | |

【達成度】 4:非常に優れている 3:良好である 2:概ね良好であるが改善の余地あり 1:不十分であり改善を要する

注)本様式は一般的な学部・研究科用であり、部局の特性に合わせて設定した領域・指標により修正してください。